

# 第72回日本臨床検査医学会学術集会 スポンサードシンポジウム

## 第8回臨床検査支援協会（ASCL）セミナー

2025年8月30日(土) 16:00～18:00

幕張メッセ 国際会議場 第8会場

### ASCL活動報告

16:00～16:10

石橋 みどり 新東京病院（ASCL副理事長）

## プロフェッショナル ～臨床検査の流儀～

16:10～18:00

座長：石橋 みどり 新東京病院／諏訪部 章 新東京病院

### 演題名／演者

### 講演時間

#### 1. 寄り添い、繋がり、育ち合う ～若手技師教育の真髄～

16:10～

脇田 満 順天堂大学医学部 附属順天堂医院 臨床検査部

#### 2. 検査がまだ知らない世界を拓く ～検査が変われば医療が変わる～

16:35～

安川 恵子 東京大学医学部 附属病院 検査部

#### 3. 未来を診る力 ～予防医学で築く長寿社会の検査戦略～

17:00～

加藤 公則 新潟大学大学院 生活習慣病予防・健診医学講座／  
新潟県労働衛生医学協会

#### 4. 検査技師のためのChatGPT活用ガイド ～日常業務でここまでできる～

17:25～

諏訪部 章 医療法人社団誠馨会 新東京病院 臨床検査部

#### 5. まとめ

17:50～

本シンポジウムの詳細は学術集会ホームページをご参照ください。

<http://jslm72.umin.jp/>



共催 第72回日本臨床検査医学会学術集会

特定非営利活動法人 臨床検査支援協会(ASCL)

## 1. 寄り添い、繋がり、育ち合う ～若手技師教育の真髄～

順天堂大学医学部 附属順天堂医院  
臨床検査部  
脇田 満



医療現場において、若手臨床検査技師の育成は重要な課題である。世代間で価値観が異なる中で、まず大切なことは、先輩や上司が若手に「寄り添う」姿勢を持つことである。若手の考えや不安に理解を示し、共に歩もうとする姿勢が、信頼関係の基盤になると感じている。また、「繋がり」は、日々の挨拶や声かけ、共感の積み重ねから生まれ、職場における心理的安全性を高めることにつながる。そして、一方的な教育ではなく、若手も指導者も互いに学び合い、刺激を受けながら共に成長していく「育ち合う」関係性こそが、若手技師教育の真髄であると考えられる。こうした関わりの中で、個々の力が引き出され、組織としての力も高まっていくのではないだろうか。

本シンポジウムでは、日々模索しながら進めている当院での取り組みを通じて、若手技師教育における課題や可能性について考察し、今後の人材育成に向けた一つの視点を提案したい。

## 2. 検査がまだ知らない世界を拓く ～検査が変われば医療が変わる～

東京大学医学部 附属病院  
検査部  
安川 恵子



新たな臨床検査法や試薬の開発は、臨床検査医学の進展において重要である。新たな検査が、新たな知見や治療法につながることも少なくない。

本シンポジウムでは、アルブミンの糖化および酸化の測定法を例に、測定法の確立と普及の過程で明らかになった知見を紹介したい。糖尿病の検査においては、ゴールドスタンダードであるHbA1c、グリコアルブミンや血糖との乖離や比較から、それぞれの検査法の長所と短所が明らかになり、より適切な活用法が示され、ガイドライン等も整備された。また、HbA1cは検体として不均一な試料を用いるため、健診などでは問題となることもわかってきた。一方、酸化アルブミンはヒトにおける酸化ストレスの優れた指標（モノサシ）になる可能性がある。酸化のモノサシが確立されれば、酸化と病態との関係、および酸化を促進、抑制する生活習慣や食事への理解が進み、酸化の測定が極めて重要であることが改めて認識されると考えられる。

## 3. 未来を診る力 ～予防医学で築く長寿社会の検査戦略～

新潟大学大学院 生活習慣病予防・  
健診医学講座／新潟県労働衛生医学協会  
加藤 公則



「未来を診る」とは、検査によって将来の健康リスクを予測し、行動変容を促すことを意味する。その代表例がNT-proBNPであり、125～300pg/mLは「前心不全状態」と新しく定義された。久山町研究では、125～400pg/mLの住民は脳卒中や心疾患による死亡リスクが高く、心不全だけではなく動脈硬化を診る上でも重要な数値である。また前心不全状態では多くの人は無症状であるため、高血圧や糖尿病の人は定期的な検査が必要である。そして、前心不全段階に対する降圧治療等の徹底により、心不全が予防できることも証明されている。また、我々は、随時尿による推定塩分排泄量測定によって塩分摂取量の可視化を行い、それに減塩行動が促されることも経験している。検査値の「血管年齢」「肺年齢」などの伝え方も、経験的には行動変容に有効であり、検査は未来を変える力を持ち、健康寿命の延伸に貢献できると考える。

## 4. 検査技師のためのChatGPT活用ガイド ～日常業務でここまでできる～

医療法人社団誠馨会 新東京病院  
臨床検査部  
諏訪部 章



近年、ChatGPTをはじめとする生成AIの普及が急速に進み、一般向けの入門書やビジネス書も数多く刊行されている。しかし、臨床検査業務に特化した活用方法を系統的に解説した書籍や情報源はほとんど見当たらない。演者は日常的にChatGPTを活用しており、事務作業ではExcel操作の確認、統計処理の手法、メール文や報告書の文面校正に、検査業務では検査データの読み方、異常値やパニック値の解釈、波形・画像検査（心電図、呼吸機能、超音波など）の所見確認に役立っている。本講演では、これらの具体的な使用例に加え、生成AIの出力内容をどのように読み取り、検査業務に活かすかという実践的な工夫（プロンプトの工夫）を紹介する。あわせて、生成AIに依存しすぎないための注意点や、医療現場での誤用を防ぐためのチェックポイントについても触れる予定である。AIを使いこなす上での「問い方のコツ」や「業務効率化につながるアイデア」を共有することで、臨床検査技師や検査室職員の日常業務におけるChatGPTの現実的な活用のヒントを提供したい。